

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470500923
法人名	医療法人豊里クリニック
事業所名	グループホームなごみ苑
所在地 (電話番号)	津市高尾野町3006番地の65 (電話) 059-230-7171
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 10 月 30 日(火)

【情報提供票より】 (H19年8月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	18,000~18,600 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(8 月 24 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 89.4 歳	最低 81 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人豊里クリニック 岩崎病院 豊里歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の北部に位置し、亀山市にも隣接し自然に恵まれた静かな大団地の中央にあり、スーパー、医療機関等が近くにあり、主要道路から入った一角にある明るい二階建洋風の住宅が事業所である。玄関はいつも解放され、愛犬「はな」ちゃんが迎えてくれ、一歩中に入ると笑顔と表情の豊かな利用者の姿が見え和やかな雰囲気がかがえる。職員は明るくて包容力があり、違和感がない。法人代表者が、医師であり、医療、健康管理は行き届いている。介護においては東京センター方式のアセスメントで利用者の生活歴、趣味嗜好、思い(気持ち)等詳細に記録されケアプランに反映している。終末期のケアについても受け入れ可能な体制がある。地区自治会に加入し住民とのコミュニケーションもよく地区との連携がよい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点はなかったが、帰宅願望の利用者の対応について、家族、職員等が話し合ったことで、その利用者の気持ちを理解でき、事業所で犬を飼うことによって利用者が落ち着いた経緯がある。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員が、自分の介護ケアを振り返る機会として、それぞれ記入し事業所がまとめた。管理者はじめ職員の介護ケアに対しての熱意を感じた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は本年6月に開催、規約も作成されていた。概ね2ヶ月に1回開催予定。メンバーは、利用者、家族、自治会役員、市職員、管理者、介護職員が出席し事業所の運営に関する報告、意見交換がされ、記録もされていた。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に利用者の状況を伝え、家族からは意見、希望などを聞いている。事業所内に苦情処理委員会も設置され、苦情相談窓口も明記している。今までの苦情は皆無である。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当時から自治会に加入し、地域の行事(公園清掃、防火訓練)などに参加している。地区保育園への訪問している。また、地域のボランティアの訪問も受け入れている。利用者の日常散歩で住民とは顔なじみである。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念としてその人の生き方人格を尊重し、さらなる成熟に向けて見守り家庭的環境下での生活自立支援を掲げているが、その後に全職員で理念を検討され、地域の中で暮らせる生活の支援を加え実践している。	○	事業所としてすでに地域密着型サービスとしての理念は検討し、実践されているがさらにパンフレット、重要事項説明書等に明記される事が望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員が常に理念を念頭において、毎日の申し送り、ミーティングの時に利用者の意思を尊重しながら理念の実践に取り組んでいる。(介護日誌の裏表紙に理念が書かれていた)		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の開設当時から自治会に加入し、地区の行事(公園清掃、草刈、防災訓練)に参加している。地区保育園への訪問もしている。住民がボランティアとしてきてもらっている。利用者の日常散歩時には住民から声をかけられ見守りもされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は介護を振り返る機会として、職員一人ひとり記入し、その後管理者と話し合い事業所としてまとめた。家族にも見てもらっている。外部評価もミーティングで報告し話し合いをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、本年6月に開催、会議の規約も作成されていた。メンバーは利用者、家族、自治会役員、市職員、事業所の管理者、介護職員が参加している。事業所の理念、運営に関する説明、自治会からは行事への参加要請があった。会議での意見等はケアサービスの向上に生かすように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人代表が地区医師会役員で、介護保険担当理事もかねており県主催の講習会の講師を務めることもあり、介護サービスの質の向上に向けては市との連携はよい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族が殆ど週1回は来訪しているため、日々の暮らしぶりを話している。年4回「なごみ苑だより」を送っている。金銭管理は利用者一人ひとりの現金出納帳があり、月1回家族が確認している。職員の異動については利用者と一緒に別れパーティーをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは来訪時によく話しかけている。苦情、相談窓口等は重要事項説明書に明記し説明もされている。事業所内に苦情処理委員会も設置されているが、現在までに苦情はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去に退職者は1名あった。新任職員と利用者が自然に親しめるように、コミュニケーションを図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は計画的に経験年数に応じ受講されている。受講後は報告し、伝達発表も実施している。また、法人代表が講師で内部研修も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他の事業所と交流し情報交換をしている。同団地内の事業所とは他の職員、利用者と一緒に出かけ等してケアサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、事業所の雰囲気や職員、利用者同志が馴染んでもらえるように1週間程度の体験利用を実施している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と信頼関係を保ちながら、日常の暮らしの中で料理の味付け、盛り付けなど一緒にやりながら利用者から学ぶ事が多くあり支えあう関係にある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活のなかで利用者一人ひとりの思い、希望を把握して、墓参り、帰宅、喫茶店(家族の経営)に出かける等利用者の意向に沿うように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	東京センター方式のアセスメントから担当職員が立案し、ケアカンファレンスで検討され介護計画が作成されている。	
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成1ヶ月後にミーティングで見直しをしている。利用者の状態に応じて随時、話し合い見直しをしている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の希望に応じて、墓参り、自宅への帰宅、喫茶店(家族の経営)に出かける、医療機関受診等に職員と一緒に出かける支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人代表が医師で、利用者の主治医であり医療機関も隣接しており2週間に1回受診の支援をしている。他の疾患(眼科、耳鼻科)の場合も適切な医療が受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に終末期ケアの経験がある。医師、看護師等の専門家の職員がおり、利用者、家族の意向で終末期ケアを望むならば支援できる体制にある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりにあった声かけが配慮されていた。職員は書類等の個人情報の取り扱いも周知され、利用者、家族にも説明し同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活リズムは決まっているが、利用者の体調を配慮しながら、その時の気持ちを尊重して散歩、買い物にでかける。食事等もそれぞれ利用者のペースにそった支援がされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の好きな利用者が、調理、盛り付けなどとても上手にしていた。おいしい「散らしずし」を職員と一緒にいただいた。食事の後片付けは他の利用者も手伝っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日いつでも入浴できるようになっている。最低週2回は入浴してもらうように入浴実施表を使用していた。入浴時間帯はゆっくりはいれるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、好きな事を見出し、食事の準備、調理、針仕事、生け花、大正琴を引く等が楽しみでもあり、役割にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回は、外食をしている、足湯にも出かける。毎日苑の周辺の散歩、買い物にでかけている。本日も午前、午後それぞれ外出していた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室は施錠さしていない。まれに利用者が出て行かれても遠くから安全を見守る支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域防災マップ、緊急連絡網、防災マニュアル、災害用備蓄(米)、水の浄化設備等が完備してある。去る5月事業所の防災避難訓練を実施、10月には地区自治会の防災訓練に参加した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の利用者には食事量の対応はしている。「計算ソフト」で1人ひとりに必要なカロリーを計算し、把握している。また、栄養のバランスを考慮し、献立を作成している。食事の摂取については1日量は全量摂取するように支援している。水分摂取量も把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の石段には季節の草花の鉢が置かれ愛犬が迎えてくれる。玄関から正面の棚には鏡が置かれ、いつでも整容ができる。居間、食堂には、イベントの写真が貼ってあり、利用者が居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッド、収納戸棚は設置。利用者それぞれに位牌(仏壇)、鏡台、キャラクターのぬいぐるみ、家族の写真等が持ち込まれ、落ち着いて過ごせるようになっていた。		